

寄せ蛾記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI : Saitama Konchyū Danwakai

目

次

並木 彰雄：埼玉県のヤガ科 (VI)	418
松井 安俊・松井 英子：ニホンセセリモドキを秩父、滝川で採集	424
長須房次郎：岩槻市のトンボについて	425
碓井 徹：クロコムラサキの採集例	430
新井 裕：クロスジギンヤンマの生態	431
碓井 徹：1982年 夢の見おさめ	434
寺山 守：長野県志賀高原周辺のアリ	435
荻島 和美：ゴマダラチョウの産卵例について	436
神久保美津夫：ムラサキシジミを狭山湖で採集	437
——：狭山湖畔の <i>Catocala duplicata</i> (マメキシタバ)	437
松井 英子：アカアシアオシャクの吸水	438
野沢 雅美：埼玉県産半翅類雑記 (6)	439
市川 和夫：アオマツムシが浦和に大発生	439
南部 敏明：埼玉県のカギバラバチ	441
神部 正博：川口市におけるトラフシジミの記録	442
××××：金曜セミナーの報告	443
蝶類分布図係：蝶類分布図係より	443
会報	444

埼玉県のヤガ科 (VI)

並木彬雄

コヤガ亜科 Eustrotiinae

1. ベニエグリコヤガ *Holocryptis nymphula* REBEL
大輪 (2♀ 14-IX-1969)、三峰山 (1♂ 17-VIII-1969,
1♂ 1♀ 14-IX-1969)
2. ウスシロフコヤガ *Lithacodia atygia* BUTLER
大宮市大谷 (1ex. 21-V-1972 桜井茂)、宝登山 (1♂ 7-VI-1970)
3. ニセシロフコヤガ *L. stygiodes* SUGI
川口市戸塚 (1♂ 23-V-1970)
4. ネモンシロフコヤガ *L. idiostygia* SUGI
宝登山 (1♂ 7-VI-1970)
5. シロマダラコヤガ *L. distinguenda* STAUDINGER
川口市、浦和市、所沢市で、5月中旬より7月下旬までの記録があり、
三峰山 (1ex. 12-V-1963) の記録がある。
6. シロフコヤガ *L. pygarga* HUFNAGEL
浦和市、大宮市、定峰峠、宝登山で、5月中旬より6月上旬と、三国峠
(1♂ 15-VII-1971) の記録がある。
7. スジシロコヤガ *L. falsa* BUTLER
白岩小屋 (動物誌)
8. ピロウドコヤガ *L. atrata* BUTLER
浦和市大門 (2♂ 7-VI-1969, 1♂ 19-VII-1969)、志賀坂峠、三峰山
三国峠で、6月中旬より8月中旬までの記録がある。
9. キモンコヤガ *L. numisma* BUTLER
宝登山 (1♂ 7-VI-1970)、大洞川上流 (1♂ 21-VII-1974)
10. クロモンコヤガ *L. senex* BUTLER
三峰山 (1♂ 14-VI-1969, 1♀ 17-VIII-1969)
11. シロモンコヤガ *L. fentoni* BUTLER
三峰山 (2♂ 14-VII-1969, 1♂ 17-VIII-1969)
12. ベニモンコヤガ *L. rosacea* BUTLER
志賀坂峠 (1♂ 1-VII-1973)、三国峠 (1♂ 3-VIII-1975)
13. キスジコヤガ *Enispa lutefacialis* LEECH
志賀坂峠 (VII、VIII)、大洞川上流 (VI、VII)、三国峠 (VIII)

14. シラホシコヤガ *E. leucosticta* HAMPSON
浦和市野田 (2♂ 10-VI-1972)
15. シロスジシマコヤガ *Corgatha dictaria* WALKER
浦和市大門 (1♀ 6-VII-1969, 1♀ 12-VII-1967)
16. シマフコヤガ *C. nitens* BUTLER
浦和市、川口市、大宮市、所沢市で、6月中旬より9月上旬までの記録がある。
17. カバイロシマフコヤガ *C. argillacea* BUTLER
志賀坂峠 (2♂ 1♀ 26-VIII-1973)
18. ウスペニコヤガ *Perynea subrosea* BUTLER
正丸峠、宝登山、志賀坂峠で、6月上旬より9月中旬までの記録がある
19. テンモンシマコヤガ *P. ruficeps* WALKER
所沢市 (1♂ 20-VI-1970)
20. アオホソコヤガ *Araeopteron amoena* INOUE
川口市、浦和市で、6月下旬より10月下旬までと、志賀坂峠 (1♂ 26-VII-1973) の記録がある。
21. ヒメクルマコヤガ *Oruza divisa* WALKER
川口市 (1♂ 15-IX-1963) 、三峰山 (1♂ 6-IX-1964)
22. マエヘリクルマコヤガ *O. mira* BUTLER
川口市、浦和市、宝登山、志賀坂峠、三峰山で、6月上旬より9月中旬までの記録がある。
23. ハススジクルマコヤガ *O. obliquaria* MARUMO
浦和市大門 (1♂ 5-VII-1969)
24. モモイロツマキリコヤガ *Lophoruza pulcherrima* BUTLER
宝登山、志賀坂峠、大輪、栃本で、6月上旬、7月上旬および9月上旬の記録がある。
25. ベニチラシコヤガ *Porphyriinia amasina* EVERSMANN
三峰山 (1♂ 10-V-1964) 、大洞川上流 (1♂ 23-VI-1974, 1♂ 14-VII-1972)
26. ホシコヤガ *Ozarba punctigera* WALKER
浦和市、名栗鉱泉 (動物誌)
27. ウスキコヤガ *Hyposada brunnea* LEECH
宝登山 (動物誌)
28. ヨモギコヤガ *Phyllophila obliteratea cretacea* BUTLER
川口市、浦和市、大宮市で、5月中旬より6月下旬、三峰山 (1♂ 17-VII-1969) で記録がある。

29. シロヒシモンコヤガ *Micardia argentata* BUTLER
川口市、浦和市、大宮市で、4月下旬より7月上旬までの記録がある。
30. フタホシコヤガ *M. pulchra* BUTLER
川口市、浦和市、大宮市、三峰山で、4月下旬より7月上旬までの記録がある。
31. ヒメオビコヤガ *Maliattha arefacta* BUTLER
川口市、浦和市、大宮市、所沢市、定峰峠、三峰山で、5月下旬より8月中旬までの記録がある。
32. ヒメネジロコヤガ *M. signifera* WALKER
川口市、浦和市、大宮市、所沢市、三峰山で、6月上旬より8月中旬までの記録がある。
33. ネジロコヤガ *M. vialis* MOORE
定峰峠、宝登山、志賀坂峠、三峰山、三国峠で、6月上旬より8月下旬までの記録がある。
34. エゾコヤガ *Deltotenoloides* BUTLER
川口市、所沢市、定峰峠、宝登山、大洞川上流で、5月中旬より7月下旬までの記録がある。
35. タデコヤガ *D. candidula leechiana* BRYK
三国峠 (1♀ 9-VII-1972, 1♂ 15-VII-1971)
36. アオスジコヤガ *D. culta* BUTLER
宝登山 (動物誌)
37. マエモンコヤガ *Unca costimacula japonica* WARREN
浦和市、所沢市、志賀坂峠、三峰山で、6月中旬より8月下旬までの記録がある。
38. モンキコヤガ *Hyperstrotia flavipuncta* LEECH
川口市 (1♂ 23-V-1964)、定峰峠、宝登山、志賀坂峠、三峰山、大洞川上流で、5月下旬より8月中旬までの記録がある。
39. ウチジロコヤガ *H. olbicincta* HAMPSON
川口市 (1ex. 23-V-1964)、浦和市大門 (1♂ 19-VII-1969)
大宮市大谷 (1ex. 13-V-1972 桜井茂)
40. ウスマオモンコヤガ *Bryophilina blandula* STAUDINGER
浦和市、所沢市、定峰峠、宝登山、志賀坂峠、三峰山で、6月上旬より8月中旬までの記録がある。
41. シラクモコヤガ *Hapalotis venustula* HÜBNER
大洞川上流 (1♂ 14-VII-1972)
42. フタオビコヤガ *Naranga aenescens* MOORE
川口市 (1♂ 23-V-1970)、志賀坂峠 (1♀ 15-IX-1974)
三峰山 (1♀ 12-VII-1962)

43. キマダラコヤガ *Emmelia trabealis* SCOPOLI

大宮市大谷 (1ex. 20-VII-1971 桜井茂)、三峰山 (1♂ 7-VI-1964)

44. フタイロコヤガ *Acontia bicolora* LEECH

柄本、三峰山、大洞川上流、志賀坂峠で、6月下旬より10月上旬までの記録がある。

45. シラホシベニコヤガ ^{*}*Porphyrinia cochylioides* GUENÉE

浦和市大門 (1♀ 18-VII-1968, 1♂ 6-IX-1969)、定峰峠 (1♂ 18-VII-1971)、三峰山 (1♂ 14-IX-1969)、三国峠 (1♂ 7-IX-1975)

46. シロフタオビコヤガ

所沢市 (1ex. 20-VI-1970)

47. クロモンコヤガ *Lithacodia senex* BUTLER

東秩父村落合 (1♂ 20-VI-1971)

48. シロテンヒメコヤガ ^{*}*Amyna octo* GUENÉE

大宮市大谷 (1ex. 24-V-1972 桜井茂)

49. サビイロコヤガ *A. stellata* BUTLER

川口市、定峰峠、宝登山、志賀坂峠、大輪で、5月中旬、7月中旬、9月中旬より11月下旬の記録がある。

50. マエホシコヤガ

宝登山 (1♂ 7-VI-1970)

51. シラホシコヤガ *Enispa leucosticta* HAMPSON

川口市、浦和市、所沢市で、5月中旬より7月上旬および9月上旬の記録がある。

52. フタトガリコヤガ *Naranga aenescens* MOORE

大宮市 (動物誌)

本亜科は、小型の蛾類が多く、まだ多数の未記録がある。ホソコヤガ類は特に小型で、アカホソコヤガ以外に3種位採集しているが未同定で、最終的には60種の大台をこえることはまちがいないだろう。特に、県南地方の丘陵地帯には、まだ面白い種が居ると思われます。

キンウワバ亜科 Plusiinae

1. イネキンウワバ *Plusia festata* GRAESER

川口市、浦和市、志賀坂峠、三峰山、柄本、三国峠で、5月中旬より9月中旬までの記録がある。

2. タマナキンウワバ *Autographa nigrisigna* WALKER
川口市、定峰峠、三峰山、大洞川上流で、5月中旬より10月下旬までの記録がある。
3. オオムラサキキンウワバ *A. amurica* STAUDINGER
三国峠 (1♂ 15-VII-1971)
4. キクギンウワバ *A. confusa* STEPHENS
浦和市、宝登山 (動物誌)
5. オオキクギンウワバ *A. crassesigna* WARREN
川口市 (1♂ 23-VI-1973, 1♂ 24-VII-1963 尾熊 勇, 1♂ 1-X-1970 渡辺 正光)
6. キンモンシロウワバ *A. purissima* BUTLER
川口市、顔振峠、定峰峠、大輪、柄本、三峰山、中双里で、5月上旬より11月上旬までの記録がある。
7. アカズキンウワバ *A. rutilifrons* BUTLER
川口市、浦和市、宝登山、志賀坂峠、三峰山、大洞川上流で、5月上旬より10月上旬までの記録がある。
8. ワイギンモンウワバ *A. jessica* BUTLER
川口市、三峰山、三国峠で、5月中旬および、7月上旬より11月上旬までの記録がある。
9. ギンボシキンウワバ *A. ornatissima* WALKER
川口市 (1♂ 9-VII-1973), 柄本、三峰山、大洞川上流、三国峠で、6月上旬より9月上旬までの記録がある。
10. モモイロキンウワバ *Anadevidia hebetata* BUTLER
宝登山、志賀坂峠、柄本、大輪、三峰山、大洞川上流、三国峠で、6月下旬より11月上旬までの記録がある。
11. ウリキンウワバ *A. peponis* FABRICIUS
川口市、浦和市、定峰峠、大輪、三峰山、三国峠で、8月中旬より11月上旬までの記録がある。
12. タンポキンウワバ *Autographa excelsa* KRETSCHMAR
三国峠 (1♀ 15-VIII-1971, 3♂ 16-VIII-1974)、十文字峠 (データ不明)
13. セアカキンウワバ *Erythroplusia pyropia* BUTLER
川口市、浦和市、飯能市、三峰山、三国峠で、5月中旬より10月下旬までの記録がある。
14. コセアカキンウワバ *Diachrysia ochreata* WALKER
浦和市 (動物誌)

15. キクキンウワバ *D. intermixta* WARREN
川口市、浦和市、定峰峠、宝登山、志賀坂峠、柄本、大輪、三峰山、三国峠で、6月上旬より//月上旬までの記録がある。
16. オオキンウワバ *D. chryson* ESPER
柄本 (2♂ 6-IX-1970)、三峰山 (3♂ 1♀ 5-VII-1964)、三国峠 (2♂ 15-VII-1971)
17. リョクモンオオキンウワバ *D. corese* STAND
定峰峠、志賀坂峠、三峰山、大洞川上流で、6月下旬より9月中旬までの記録がある。
18. マガリキンウワバ *D. leonina* DBERTHÜR
柄本、三国峠で、8月上旬より9月上旬までの記録がある。
19. ニセマガリキンウワバ *D. bieti* OBERTHÜR
大洞川上流 (1♂ 3-VIII-1975)、三国峠 (1♂ 3-VIII-1975, 1♂ 15-VIII-1971)
20. シロスジキンウワバ *Plusia zosima* HÜBNER
宝登山、三峰山 (動物誌)
21. ホソヒサゴキンウワバ *P. stenochrysia* WARREN
三国峠 (1♂ 1♀ 3-VIII-1975, 2♂ 15-VIII-1971, 4♂ 6-VIII-1974)
22. シーモンキンウワバ *Chryoptera mikadina* BUTLER
志賀坂峠 (1♂ 26-V-1974, 1♂ 1-VII-1973)、三国峠 (1♂ 9-VII-1972, 1♂ 16-VII-1974)
23. アカキンウワバ *Polychrysia aurata* STAUDINGER
三国峠 (1♂ 2♀ 16-VIII-1974)
24. ミツモンキンウワバ *Chryoptera agnata* STAUDINGER
川口市、浦和市、志賀坂峠、柄本、三峰山、三国峠で、6月上旬より//月下旬までの記録がある。
25. ニシキキンウワバ *C. ichinosei* DUFY
大輪、三峰山、三国峠で、9月上旬より//月上旬までの記録がある。
26. エゾギクキンウワバ *C. albostriata* BREMER et GREY
川口市、宝登山、大輪、柄本、三峰山、三国峠で、9月上旬より10月中旬までの記録がある。
27. イチジクキンウワバ *C. eriosoma* DOUBLEDAY
川口市、定峰峠、宝登山、志賀坂峠、大輪、柄本、三峰山、三国峠で、7月上旬より//月下旬までの記録がある。
28. ホソバネキンウワバ *C. acuta* WALKER
浦和市、三峰山 (動物誌)

29. イラクサマダラウワバ *Abrostola trigemina* WERNEBURG
三峰山 (36 12-V-1963)
30. ユミガタマダラウワバ *A. abrostolina* BUTLER
川口市、浦和市、所沢市、宝登山、志賀坂峠で、5月上旬より9月上旬までの記録がある。
31. ウスグロマダラウワバ *A. sugii* DUFAY
大輪 (T I N E A)
32. ミヤママダラウワバ *A. pacifica* DUFAY
三峰山 (T I N E A)
33. オオマダラウワバ *A. major* DUFAY
大輪、栃木、三峰山で、9月中旬より10月上旬までの記録がある。

*Abrostola*属は、交尾器での同定が済んだ種だけ入れた。本亜科は、私にとっては苦手の亜科で、本目録も同属の種があっちに入ったりこっちに入ったりして見苦しいと思いますが、今後、当亜科に増えるとすれば5種前後と思われます。比較的、山地から亜高山帯に分布する種が残されておりますが、採集の条件の良い所が少ないので最後まで残りそうです。

(〒332 川口市並木元町 5-2)

ニホンセセリモドキを秩父、滝川で採集

松井 安俊・松井 英子

本会の第2回宿泊談話会が奥秩父で行われた1982年8月20日、午前11時30分頃、滝川の林道（海抜約750m）で、イタドリに訪花、吸蜜するニホンセセリモドキ *Hyblaea fortissima* BUTLER / ♀の新鮮な個体を採集した。標本は筆者が保管している。

本種は、早春に見られるケースが多いが、夏～秋にも採集例（たとえば原聖樹氏・本誌No.34、p.328）もあり、新刊の日本産蛾類大図鑑では、年1化で7月に羽化しあまり活動せずに夏～冬を過ごし、翌春活動するとされている。

なお、埼玉県での既知の産地は、中津川渓谷、栃木、三峰山麓、鹿の湯（埼玉県動物誌、1978）である。

発表をすすめて下さり、ご教示賜った市川和夫氏に厚くお礼申し上げる。

(〒277 柏市根戸 427-5 北柏第2住宅 3-102)

岩 槻 市 の ト ン ボ に つ い て

長 須 房 次 郎

岩槻市は、埼玉県の東部に位置し、面積約50㎢の南北に細長い形をした地域である。市の東は春日部市及び越谷市に、西は綾瀬川をはさんで大宮市及び浦和市に接し、南は川口市、北は蓮田市及び白岡町に隣接している。

地形をみると、標高10~14mの平坦な台地（岩槻台地と慈恩寺台地）と、元荒川・綾瀬川等の河川によってできた沖積低地とで形成されている。

市内を流れる川は、元荒川・綾瀬川・古隅田川があり、ほかに、人工的に掘削された堀や用水がある。

元荒川は、市を西北から南東に縦断し、綾瀬川は市の西南部、大宮・浦和市と境を流れる。古隅田川は、市の北部古ヶ場付近、慈恩寺沼周辺の流水を集め、吉利根川に合流している。

池・沼としては、急激な土地開発により、住宅、学校、工場敷地として変わってしまったものが多いが、慈恩寺沼、赤坂沼が沼らしい姿をとどめている。

岩槻市のトンボ相の調査記録として、「埼玉県岩槻市のトンボ」（長須，1965¹⁾）と「埼玉県岩槻市慈恩寺付近のトンボ」（大熊，1979²⁾）がある。さらに、「埼玉県のトンボ類」（長須，1978³⁾）にも、岩槻市のトンボについて一部ふれてある。筆者は、1978年から現在まで岩槻市内に勤務しており、折にふれ、トンボの観察をしてきた。この観察記録と、前記の文献を参考にしながら、「岩槻市のトンボ」について整理し、ここに記録しておきたい。この記録に先立ち、長い間ご指導を頂いている朝比奈正二郎博士、枝重夫博士に感謝申し上げる。

なお、採集観察記録のうち、採集者名のないものはすべて筆者によるものである。

イトトンボ科 *Agrionidae*1. ホソミイトトンボ *Aciagrion migratum* SELYS

2-V-1974 慈恩寺沼 (大熊) :

本種は関東地方を北限とする。成虫で越冬する。県内の産地は少ない。
筆者は、未だ市内では確認していない。

2. キイトトンボ *Ceriagrion melanurum* SELYS

7-VII-1973 慈恩寺沼 (大熊)

5-VI-1982 2♂ 赤坂沼 (羽化直後のもの多し)

13-VI-1982 1♂ 1♀ 赤坂沼

11-VII-1982 1♂2♀ 赤坂沼
 15-VII-1982 休耕田に多数見られた。赤坂沼
 24-VII-1982 1♂1♀ 赤坂沼

3. ベニイトトンボ *C. nipponicum* ASAHINA

18-VII-1959 4♂ 長宮沼
 8-VIII-1964 2♂ "
 13-VI-1982 2♂ 赤坂沼
 11-VII-1982 ♂ 多数 "
 15-VII-1982 1♂ "
 24-VII-1982 ♂♀ / 組 産卵中を撮影 赤坂沼

以上その他、慈恩寺沼にも生息していることを1981年8月に確認している。

4. アジアイトンボ *Ischnura asiatica* BRAUER

8-VIII-1964 2♂1♀ 長宮沼
 5-V-1973 1♂ 岩槻公園
 25-V-1974 慈恩寺沼 (大熊)
 5-VI-1982 1♂1♀ 赤坂沼
 6-VI-1982 1♀ "
 11-VII-1982 1♂2♀ (♀橙色) 赤坂沼
 24-VII-1982 個体数少ない "

5. アオモンイトトンボ *I. senegalensis* RAMBUR

7-V-1974 慈恩寺沼 (大熊)
 11-VII-1982 1♂1♀ 赤坂沼

6. クロイトトンボ *Cercion calamorum* RIS

30-IV-1972 1♂1♀ 岩槻公園
 13-VII-1973 ♂♀若干 "
 5-V-1982 1♂ 他に産卵中のもの 赤坂沼
 6-V-1982 2♂1♀ 赤坂沼

赤坂沼では、6月13日、7月11日、8月15日にもかなりの数の本種が見られた。

7. セスジイトトンボ *C. hieroglyphicum* BRAUER

18-VII-1959 2♂2♀ 長宮沼
 17-V-1964 3♂3♀ "
 8-VIII-1964 1♂ "

8. オオイトトンボ *C. sieboldii* SELYS

7-V-1974 慈恩寺沼 (大熊)
 30-IV-1972 3♂2♀ 岩槻公園
 5-VI-1982 1♂ 赤坂沼

赤坂沼ではその後、6月6日に1♂、6月13日に1♀を採集、8月15日には♂♀多数を目撃するとともに交尾中のものを撮影、8月24日にも多数目撃、1♂を採集した。

モノサシトンボ科 Platycnemididae

9. モノサシトンボ *Copera annulata* SELYS

18-VIII-1959 2♂2♀ 長宮沼

10. オオモノサシトンボ *C. tokyoensis* ASAHIWA

18-VIII-1959 4♂2♀ 長宮沼

8-VIII-1964 1♂1♀ "

13-VII-1973 ♂若干 岩槻公園

カワトンボ科 Calopterygidae

11. ハグロトンボ *Calopteryx atrata* SELYS

18-VII-1959 1♂1♀ 元荒川畔

上記のほかに、古隅田川畔に、数は少ないが生息している。

サナエトンボ科 Gomphidae

12. ナゴヤサナエ *Stylurus nagoyanus* ASAHIWA

18-VII-1959 1♀ 岩槻公園

13. コサナエ *Trigomphus melampus* SELYS

17-V-1964 1♂ 長宮沼

14. ウチワヤンマ *Ictimus clavatus* FABRICIUS

18-VII-1959 目撃 長宮沼

14-VII-1963 1♂ " (金子直久)

8-VII-1964 目撃 "

10-VII-1974 慈恩寺沼 (大熊)

ヤンマ科 Aeschnidae

15. アオヤンマ *Aeschnophlebia longistigma* SELYS

13-VI-1982 1♂1♀ 赤坂沼

なお、本種の羽化殻も採集できたので、生息していることは確実である。
県内でも本種の産地は限られているので、ここは貴重な産地である。

16. カトリヤンマ *Gynacantha japonica* BARTENEV

25-VII-1974 慈恩寺 (大熊)

筆者の勤務している慈恩寺中学校の職員室に、年1~2回迷いこんでくる

17. ギンヤンマ *Anax parthenope julis* BRAUER

15-VII-1963 1♂ 長宮沼 (金子直久)

21-VII-1973 慈恩寺 (大熊)

他に、1959年8月18日、1964年8月8日に、長宮沼にて目撃の記録がある。1982年6月5日にも赤坂沼にて目撃している。

オニヤンマ科 Cordulegasteridae

21. オニヤンマ Anatogaster sieboldii SELYS

21-VI-1973 慈恩寺 (大熊)

エゾトンボ科 Corduliidae

19. トラフトンボ Epitheca marginata SELYS

17-V-1964 目撃 長宮沼

ヤマトンボ科 Macromiidae

20. オオヤマトンボ Epophthalmia elegans BRAUER

17-V-1964 目撃 長宮沼

20-VII-1974 慈恩寺沼

トンボ科 Libellulidae

21. ハラビロトンボ Lyriothemis pachygastera SELYS

30-IV-1972 ♂ 1♀ 岩槻城跡公園内

6-VI-1982 1♂ 赤坂沼

7-V-1975 慈恩寺

22. シオカラトンボ Orthetrum albistylum speciosum UHLER

30-IV-1972 1♂ 1♀ 岩槻公園

13-VII-1973 目撃 "

18-VII-1959 1♂ "

17-V-1964 2♀ 岩槻市街地

20-VII-1973 慈恩寺 (大熊)

28-IX-1973 "

市内に普通に見られる。赤坂沼付近では 1982 年 6 月 5 日、6 月 6 日、
6 月 13 日、7 月 11 日、8 月 24 日に確認している。

23. オオシオカラトンボ O. triangulare melania SELYS

16-VII-1963 1♀ 岩槻市街地 (金子直久)

6-VII-1964 1♂ 岩槻公園

8-VII-1964 1♂ 1♀ 岩槻市街地

慈恩寺付近でもかなり多く見られる。

24. ショウジョウトンボ Crocothemis servilia DRURY

6-IX-1978 若干 慈恩寺中学校の一角の池

25. コフキトンボ Deielia phaon SELYS

18-VII-1959 2♀ 長宮沼

このうちの 1♀ は、翅の基部に広い橙色のある f. diopa SELYS の
オビトンボである。

13-VI-1982 ♂ 1♀ 数頭目撃 赤坂沼

26. ナツアカネ *Sympetrum darwinianum* SELYS

25-VII-1975 慈恩寺 (大熊)
 9-IX-1978 1♂1♀ 鹿室

27. アキアカネ *S. frequens* SELYS

20-IX-1973 慈恩寺 (大熊)
 3-XI-1982 1♂1♀ 赤坂沼

なお、1982年11月3日、午前10時前後、老熟した本種が、さかんに産卵するのが見られた。♂♀が連結したまま、打水 (打泥) 産卵をしていた。本種は、9月中旬から10月のあいだ、群飛するのがよく見られる。

28. ヒメアカネ *S. parvulum* BARTENEF

15-VII-1982 1♀ 赤坂沼
 24-VII-1982 1♂ (赤化していた) 赤坂沼

県内での採集記録はあまり多くない。池沼に産し、ほとんど水辺から離れない。

29. マユタテアカネ *S. eroticum eroticum* SELYS

18-VII-1959 1♂ 岩槻公園

30. ノシメトンボ *S. infuscaatum* SELYS

25-VII-1975 慈恩寺 (大熊)
 9-IX-1978 2♂2♀ 鹿室地内

本種は、6~10月のあいだに見られ、慈恩寺地区では、かなり個体数が多く見られる。ナツアカネと混在して見られる。

31. コシアキトンボ *Pseudothemis zonata* BURMEISTER

18-VII-1959 1♂ 長宮沼
 14-VII-1963 1♂ " (金子直久)
 2-VII-1974 慈恩寺 (大熊)

32. チョウトンボ *Rhyothemis fuliginosa* SELYS

18-VII-1959 1♂ 長宮沼
 8-VII-1964 1♂ "
 22-VII-1974 慈恩寺 (大熊)

1981年8月には、慈恩寺沼に見られた。赤坂沼では、1982年の観察では未確認。

33. ウスバキトンボ *Pantala flavescens* FABRICIUS

21-VII-1963 ♂若干 岩槻市街地
 20-IX-1973 慈恩寺 (大熊)

本種は7月から10月上旬まで、市内いたる所で観察できる。

以上、8科33種を、「岩槻市のトンボ」としてまとめて記録したが、調査は未だ十分と言えない。特に、サナエトンボやヤンマのなかま、さらにはアカトンボのなかまの出現期に十分な観察ができなかったことが悔まれる。また、

オツネントンボとホソミオツネントンボの生息も十分考えられる。

まとめてみると、調査の不十分さがはっきりする。これから、心を新たにして調査研究をすすめていきたいので、先学諸氏のお力添えを切にお願し稿を終える。
(1982. 11. 7)

参考文献

1) 長須 房次郎 (1965) : 埼玉県岩槻市のトンボ

Insect Magazine 65 : 12-14

2) 大熊 光治 (1979) : 埼玉県岩槻市慈恩寺付近のトンボ

昆虫と自然 14 (8) : 12

3) 長須 房次郎 (1978) : 埼玉のトンボ類

埼玉県動物誌 403-432

(〒340-01 埼玉県北葛飾郡幸手町 中4-9-27)

(埼玉県岩槻市立慈恩寺中学校長)

クロコムラサキの採集例

碓井 徹

筆者は、埼玉県内では記録の少ないクロコムラサキを、県内で1日のうちに2頭採集することができたので報告する。

採集場所：埼玉県秩父郡大滝村入川

採集日：1982年8月7日

採集個体：2♂ (2頭ともやや汚損している。)

当日は、河岸のヤナギ類の周囲に多数のコムラサキが飛びまわっており、上記2個体は、飛翔中も他のコムラサキに比べて色彩が黒ずんでいることが認められ、遠目にもクロコムラサキであることが判別できた。

なお、上記2頭のうち1頭は典型的なクロコムラサキであるが、もう1頭は藤岡大図鑑の PL. 109、No. 23 に示されているような、普通のコムラサキとクロコムラサキとの中間的な色彩の翅を持った個体である。

(〒362 上尾市壱丁目454-3)

クロスジギンヤンマの生態

新井 裕

クロスジギンヤンマは春期に出現する普通種であるが、その生態に関する観察記録は意外に少い。

筆者は埼玉県秩父市の発生地において本種の生態を観察し、若干の知見を得たので報告する。

・ 観察場所

観察は1982年に埼玉県秩父市大宮の雑木林に囲まれた湿地とその周辺にある大小3つの池で行った。観察時刻は平日には12時～13時に、土曜と日曜にはその他の時間にも観察した。

・ 観察結果

1. 幼虫の発育経過

湿地の水溜り内においてザルを用いて幼虫を採集し、齢期を調べた。その結果は表に示した通りである。サンプル数が十分でないので確実な発育状況を知

齢期 採集日	N(終令)	N-1	N-2	N-3
1月16日	30頭	8頭	1頭	0頭
9月4日	0	5	2	0
10月17日	4	2	0	0
11月4日	8	0	2	0

表. 採集時期別の幼虫齢期 (1982年)

ることはできないが、9月中旬には終齢に達する個体があること、大部分の幼虫は終齢で越冬するものの、一部は終齢の1～2齢前で越冬することが明らかとなった。

採集した幼虫を手でつかむと、幼虫は激しく体をくねらせて尾端の肛側片でつかんでいる手を突き刺そうとしたり、捕食時のように下唇を伸ばしてかみつくような攻撃的動作を示した。

湿地内の水溜りは、晴天乾燥状態が続く冬期間にはほとんど消失し、わずかに残った水溜りも厳寒期にはすっかり凍り、氷塊と化してしまった。厳寒期に氷を壊して調査したところ、幼虫は氷塊の下の泥中に埋れるような状態で潜伏

していた。そのような幼虫は仮死状態となっており、寒さのためかすでに死亡している幼虫も数頭みとめられた。

2. 成虫の出現期

羽化は4月下旬～5月上旬に始まった。羽化は夜間に行われるが、当夜羽化する幼虫は水面から頭部を出しており、人が近づくとす早く水中に潜った。

成熟した成虫は5月上旬から出現して7月まで見られ、5～6月に個体数が多くなった。

3. 成熟成虫の生態

1) 雄のパトロール飛翔

雄は成熟すると池や湿地に飛来し、その上空を活発に飛びまわった（以下この飛翔をパトロール飛翔と記す）。

パトロール飛翔は早朝から夕刻までみられ、その飛翔範囲は水面の大きさによって異なった。すなわち、大きな池ではその全域を不規則に飛びまわるのに対し、小さな水溜りでは水面とその周辺を比較的規則的に飛びまわった。飛翔高度は水面上を飛ぶ時には水面上数10cmの低空飛行であるが、水面から離れると高度を増し、地上10m前後の高さを旋回することもあった。飛翔中はサラサヤンマ（武藤、1966）やマダラヤンマ（曾根原、1964）で観察されているようなホヴァリングは示さず、水面上を飛翔する場合には、わずかに上下動を伴うことがあった。

パトロール飛翔の継続時間は1分～29分と短かく、5分前後で終了するケースが多く、どこからともなく水面に飛来した雄はしばらく飛びまわると、休息することなく再びスーと樹林中に姿を消してしまった。

パトロール飛翔中の雄は、他の飛行中の昆虫に対して極めて敏感に反応し、飛行個体に対しては急速な接近行動をとった。この接近行動は摂食が目的でないことは確かで、相手の数10cmの距離まで近づくとUターンして戻ってしまった。しかし、同種の雄を認めた時には様相が異なり、極めて攻撃的な行動をとった。すなわち、パトロール飛翔中の雄が、他の同種雄を発見すると速度を増して急接近し、そのまま相手の下方から激突したり、上から撲みかかったりした。ついで、ジグザグ状に、あるいは円を描くようにしてもつれあつたかと思うと、一定の間隔を置いて斜め上方に追跡した。追跡は20m～30mにも及び、追跡後、突然追跡者がUターンしてもとの水面に戻って戦いを終了した。一方追われた方の雄はすぐに水辺に戻ることはなく、そのまま飛び去った。

このように、同種雄に対するパトロール飛翔雄の排撃的行動は明瞭であり、

そのためにかなり大きな池でも複数の雄が同時にパトロール飛翔を行うというケースはみられなかった。従って、本種のパトロール飛翔空間はなわばりとみなすことができるが、それが長時間にわたって確保されることがない点や、なわばりを複数の個体が分けあうことがないことが、ハネビロエゾトンボ（武藤 1960）やカラカネトンボ（生方、1975）等、他の飛翔型のなわばり占有を行う種と異なっている。

2) 交尾と産卵

パトロール飛翔中の雄は雌を発見すると、ただちに交尾のための捕捉行動にてた。しかし、雄が産卵中の雌を察知する能力はあまりすぐれていないようで、雌のすぐ上空を何度も通過してもその存在に気づかないことがしばしばられた。雄は雌に気づくと、特別な求愛動作を示すことなく、いきなり雌に掴みかかって連結態となつた。連結後飛びまわりながらすぐに空中で交尾態を形成すると、一気に上昇して樹上に消えた。交尾は池の近くの樹梢に静止して行うものと思われるが確認できなかつた。

産卵行動は日中から夕方にかけてみられた。

産卵のために池に飛来した雌は、水面上を低くゆっくりと飛びながら産卵場所を探し、適当な場所を見つけると静止し、すぐに産卵行動に移つた。今回の観察では、産卵の対象物は、スイレンやガマなど生きている植物体に限定されていた。産卵中の雌は羽を小刻みに震わせることが多く、後退りしながら2~3mmの間隔で1粒ずつ植物組織内に卵を産み込んでいった。産卵は、時おり飛び立つて場所を移動して行い、30分間にわたって続けられた。産卵を終えた雌は、飛び立つと空中で回転してからだに付着した水を振り払い、その後一気に飛び去つた。

3) 雌の連結拒否動作

山口（1971）は、産卵中の雌が接近した雄に対して、羽を閉じる動作によつて雄による捕捉を回避した例を報告している。筆者もこれと同様の動作を観察したが、捕捉を回避することはできなかつた。この雌は産卵中であり、アシナガバチが2回接近したところ、その度に雌はパッと4枚の翅を折りたたみ、ハチが去ると元の姿勢に戻つた。その後間もなくパトロール飛翔中の雄が接近したところ、やはり雌は即座に4翅を閉じた。しかし、雄はかまわず雌に掴みかかり、連結態となって飛び立ち、空中で交尾態となって飛び去つてしまつた。この雌の動作は連結拒否行動と思われるが、その効果は絶対的なものではないようである。

また、ギンヤンマ属とルリボシヤンマ属の種の中には、雌が腹部を下方に折り曲げて飛翔するものが知られており、これも連結拒否行動と考えられている。筆者も、本種で1例だけであるが雌の腹部屈曲飛翔を観察した。その雌は、産卵のために池に飛来した個体で、産卵を行っては別の場所に移動し、また産卵するということを繰り返した。腹部屈曲姿勢は、産卵場所を求めて移動する度に示したもので、かなり長距離を飛ぶ際にも腹部を曲げたままにしていた。しかし、この雌の近くには全く他個体はいなかったので、雄を意識してとった行動とは思われず、連結拒否姿勢であるかどうか疑わしい。

引用文献

曾根原 今人, 1964 : マダラヤンマの幼虫の発見と成虫の生態

T O M B O, 7 : 2-12

武 藤 明, 1960 : ハネビロトンボの生態. T O M B O, 3 : 8-15

———, 1966 : サラサヤンマの生態 (2). 生物研究, 10 : 10-15

生 方 秀 紀, 1975 : カラカネトンボの縄ぱり行動.

インセクタリウム, 12 : 196-199

山 口 正 信, 1971 : 産卵中に拒否姿勢を示すクロスジギンヤンマ

T O M B O, 14 : 29

(〒360 熊谷市桜木町2-3-27

熊谷第2公舎 402)

1982年 夢 の 見 お さ め

碓 井 徹

TSU・I・SOのNo.358に「関東についてベニモンカラス登場」という、センセーショナルなミニ・ニュースが載りました。内容は、埼玉県の武甲山で、今シーズンにミヤマカラスシジミの卵に混じって、ベニモンカラスシジミの卵が採れたらしく、というややウワサに近い未確認情報のようです。次のNo.359の編集後記では、TSU・I・SOのスタッフらが、その情報を頼りに橋立川から入山したもの、食樹のクロウメモドキも見つからなかった、という話も載っていました。 (実は、私はTSU・I・SOは毎年末にまとめ買いをするのでNo.358, 9とも実見しておらず、本会員でTSU・I・SO読者の竹内 崇夫氏から、電話でこの掲載文の内容を教えて頂きました。月刊むしの12月号の編集後記でもこの話題に少しふれています。来年4月の「春の談話会」では、「埼玉県産ベニモンカラスシジミの卵の回覧が行われることを夢見ております。」

長野県志賀高原周辺のアリ

寺山守

筆者は1982年5月28日、29日に、長野県志賀高原及びその周辺においてアリの採集を行った。この時にえられたアリを記録しておきたい。尚、本地域を御案内くださった藤沢正平氏(飯山市)に心から御礼申し上げる。

採集地

- A: 下高井郡山ノ内町 (横手山, 2300m)
- B: " (熊ノ湯, 1650m)
- C: " (丸池, 1430m)
- D: " (坊平, 1000m)
- E: " (天川神社, 700m)
- F: 中野市平岡 (若宮八幡, 380m)
- G: 飯山市 (黒岩山)

Subfam. PONERINAE ハリアリ亜科

- 1) *Ponera japonica* WHEELER ヒメハリアリ (F)

Subfam. MYRMICINAE フタフシアリ亜科

- 2) *Myrmica ruginodis* NYLANDER シワクシケアリ (A, B)
- 3) *M. cobicornis* NYLANDER エゾクシケアリ (B, C)
- 4) *Leptothorax acervorum* (FABRICIUS) タカネムネボソアリ (A, C)
- 5) *Aphaenogaster famelica* (Fr.SMITH) アシナガアリ (E, F, G)
- 6) *Tetramorium caespitum* (LINNAEUS) トビイロシワアリ (D, E, F, G)
- 7) *Pheidole fervida* Fr.SMITH アズマオオズアカアリ (E, F, G)
- 8) *Diplorhoptrum japonicum* (WHEELER) トフシアリ (G)

Subfam. FORMICINAE ヤマアリ亜科

- 9) *Paratrechina flavipes* (Fr.SMITH) アメイロアリ (E, F, G)
- 10) *Lasius niger* (LINNAEUS) トビイロケアリ (A, C, D, E, F, G)
- 11) *L. hayashi* YAMAUCHI et HAYASHIDA ハヤシケアリ (C)
- 12) *L. fuliginosus* (LATREILLE) クロクサアリ (G)
- 13) *L. flavus* (FABRICIUS) キイロケアリ (B)
- 14) *L. sp.* (rabaudi or umbratus) (B, F)

- 15) *Formica lemani* BONDROIT ヤマクロヤマアリ (A)
 16) F. *japonica* MOTSCHULSKY クロヤマアリ (D,E,F,G)
 17) F. *fukai* WHEELER ツノアカヤマアリ (B)
 18) F. *yessensis* FOREL エゾアカヤマアリ (D , G)
 19) *Camponotus japonicus* MAYR クロオオアリ (D,E,F,G)
 20) C. *obscripes* MAYR ムネアカオオアリ (E , G)
 21) C. *quadrinotatus* FOREL ヨツボシオオアリ (E,F,G)

(千321 宇都宮市東峰町305 / 東雲荘 / 号室)

~~~~~  
 ゴマダラチョウの産卵例について

荻島和美

1982年8月22日午後2:00ごろ(くもり一時晴れ・32℃以上)、ゴマダラチョウ♀の産卵を観察したので報告する。

わが家の竹林の縁に3m位のエノキがあり、すぐ横にシダレヤナギの大木があって、三者が交錯した状態にある。

1. エノキの葉(表・裏)に1~3卵ずつ、小枝に1~2卵ずつ、幹のしわやくぼみに1卵ずつ産卵している。
2. エノキの幹にしきりに腹端を押しつけながら根元へと下っていくが、適当な場所がないのでほとんど産卵しないことが多い。根ぎわまで下りてヒノキの枯葉に1卵、竹の枯葉に2卵産卵した。
3. エノキの小枝についているアブラゼミの抜け殻にも1卵産卵した。
4. エノキの小枝にぶらさがった枯葉の束にも1卵産卵した。
5. エノキから少し離れて竹の葉に止まることが多い。休んでいるのかと思っていたが産卵しようとしている。が、足場が悪いのか産卵できない。竹にひつかかった竹の枯葉に2卵産卵した。
6. シダレヤナギの幹に1卵ずつ2回産卵した。

以上、時間の都合で充分な観察ではないが、普通葉表に1卵ずつ産卵するという印象の強い本種も、近似種のオオムラサキほどではないにしても多様な産卵をすることもあるようである。また、産卵態勢で腹端を対象物に押しつけた時のシックリ感というものが重要であるように思われてならない。なお、エノキ以外に産付された卵から孵化した幼虫が、無事エノキの葉にたどりつけたのかどうかは不明である。

( 千346-01 南埼玉郡菖蒲町小林2952 )

ムラサキシジミを狭山湖で採集

神久保美津夫

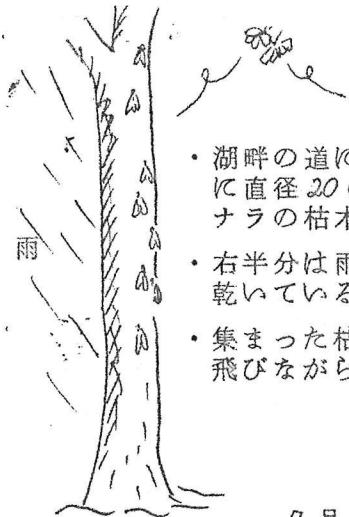
1982年10月15日、狭山湖畔(入間市)において、ムラサキシジミ♂(破損)を採集した。つづいて10月23日、ムラサキシジミ♂(新鮮)を同じ場所にて採集している。これは、ウラギンシジミを採集している時に偶然とび出してきたものである。15日に採集した個体は、やっとムラサキシジミと判明できるぐらいかなり破損がひどかった。数年間、狭山丘陵で採集を行っているが、ムラサキシジミの採集はもちろん初めてである。どこから飛来したものではないかと考えてみたのだが、ムラサキシジミの発生地は近くに見あたらないことと、ウラナミシジミのように移動できる蝶でもないはずである。そこで、10月23日に再び同じ場所を訪れてみた。前回採集した所と3メートルと離れていない場所に新鮮なムラサキシジミが日向ぼっこをしていたのである。私は改めて付近の環境を観察してみた。湖畔の周りは小高い丘に囲まれ、北風をさえぎるようになっている。湖の道に面したこの場所は日当りもよく、カシなど常緑樹も多い。2度同じ場所で、しかも1頭は新鮮な個体であることと環境を考え合わせ、迷蝶ではなく、この場所で発生したものと確信している。

(〒358 入間市下藤沢158)

狭山湖畔の *Catocala duplicata* (マメキシタバ)

神久保美津夫

1982年7月31日と8月4日の2回にわたり、狭山湖畔で *Catocala* の夜間採集を行った。マメキシタバが多数発生していた。場所は、地図の上で入間市に入り、湖畔の取水口付近である。湖畔は、主にクヌギ、コナラの樹林帯で、多数発生していたのは、その中の道に面した2本の木のみである。1本は、直径30センチほどの大きなクヌギで、もう1本は、なぜか、完全に立枯れしているコナラの木であった。31日は、時おり雨が降るあいにくの天候であったが、雨のあたらない木の側面に多数のマメキシタバがとまっていて、その枯木の周辺で飛びながら交尾行動を行っているのも観察された。採集は、手のとどく所のみ毒瓶で行ったが、高い所はどうにもならず、足で木を蹴ってみた。一斉に飛びたつものの、しばらく周辺を飛び回り、不思議にもとの木へ戻ってくる。よほどこの枯木が気に入っているようだ。特定の木に集まり配偶行動を



- ・湖畔の道に面した場所に直径 20 cm ほどのコナラの枯木。
- ・右半分は雨があたらず乾いている。
- ・集まつた枯木の周辺で飛びながら交尾行動。

7月31日

*Catocala duplicata* (マメキシタバ) 38 exs. 新鮮  
*C. actaea* (コシロシタバ) 7 exs. 新鮮

8月4日

*C. duplicata* (マメキシタバ) 30 exs. やや破損が多い  
*C. actaea* (コシロシタバ) / ex. 新鮮

(〒358 入間市下藤沢 158)

### アカアシアオシャクの吸水

松井英子

蛾の成虫の吸水行動を観察したので以下に報告する。

種名：アカアシアオシャク *Culpinia diffusa* WALKER

観察日時：1982年8月4日，15時30分頃

天候：晴，気温 27 °C

観察地：千葉県柏市根戸

行動：コスモスの茂みの間の湿った柔らかな土に、口吻をのばしてつづくようにして吸水していた。翅はほぼ水平に開いていた。筆者が接近する度に低く飛んで 20 cm 程はなれた地上に降り、同じ動作を繰り返した

未筆ながら、本種の同定にあたり御教示を賜った井上 寛氏に厚くお礼申し上げる。

(〒277 柏市根戸 427-5、北柏第2住宅 3-102)

行うマメキシタバの習性に、大変興味深いものを感じた。集団を作るのは必ずしも食樹とは限らないようだ。塗った糖蜜には 1 頭ないし 2 頭ほどきていたが、採集はほとんど 2 本の木で行った。8月4 日には、前回多数集まっていた枯木には 1 頭も見あたらなかった。もう 1 本の大きなクヌギには、以前と同じく多数集まっていた。

採集数は次の通り。

*Catocala duplicata* (マメキシタバ) 38 exs. 新鮮  
*C. actaea* (コシロシタバ) 7 exs. 新鮮

埼玉県産半翅類雑記 ( 6 )

野沢 雅美

・秩父でマダラカモドキサシガメを探る

サシガメ科 Reduviidae アシナガサシガメ亜科 Emesinae は各肢及び体が細長く、一見 Diptera のヒメガガンボ類 Limoniidae 等によく似ている。筆者は、この程マダラカモドキサシガメ Empicoris brachystigma(HORVÁTH) の雄 / 個体を得たので報告する。

1982年10月24日、秩父郡小鹿野町飯田観音山札所31番（観音院）の石段登口で低木のビーティングによって得たものである。日陰のやや湿った環境であった。Emesinaeの中では小型（約4.5mm）で、和名の通り Diptera と見まちがえるほどである。触角長、小楯板の陥没及びその前端と後端に棘があることから本種を同定した。なお、同所からは、同様な方法でコガシラウンカ科 Achilidae のスジコガシラウンカ Rhotala vittata MATSUMURA を5個体得ている。

日本産の Emesinae はおよそ10種が知られているが、埼玉県からは、これまでセスジアシナガサシガメ Gardena fuska FUKUI と、オオアシナガサシガメ G. melinarthrum DOHRN の2種が報告されている。（埼玉の半翅類, 1978）従って、本種を含めた3種が確かな記録となる。オオアシナガサシガメは、寺山守氏が1975年8月29日に武甲山から得た大型の種で、従来、九州から記録されていたものである。筆者の手を経て、宮本正一博士が同定したものであることを改めて付記しておきたい。

(〒369-12 寄居町桜沢2399-1 公舎2号)

アオマツムシが浦和に大発生

市川 和夫

アオマツムシ Calyptotrypus hibinonis MATSUMURA は、1950年頃に東京方面から幹線道路沿いに戸田、川口、浦和それに川越で鳴くのを耳にするようになったが、その後しばらくして絶えてしまったようである。しかるに、1975年頃より再び県の南西部で出現したことが知られるようになり、次の個体が採集された。

26 新座市 17-X-1976, 山崎 柄根 採集・保管

16 飯能市 15-IX-1976, 野沢 雅美 採集・筆者保管(未記録)

さらに、山崎 柄根 (1978, 埼玉の直翅類 埼玉県動物誌) によると、宮川幸三氏も同年に川越市で発見しているという。

最近はさらに生息範囲が広がると共に個体数も激増してきたので、浦和市南浦和駅付近の発生例を報告しておく。筆者は南浦和駅西口から徒歩5分のところに住んでいるが、そこは京浜東北線の西側で武藏野線の北側の商住宅である。

本年9月末に山崎 柄根先生から、南浦和駅東口から約1.2kmの産業道路沿いでアオマツムシが鳴いていると指摘されたので、自宅付近も注意してみたところ、近所の家のカキの木で蒸し暑い晩に限って同じ樹上で鳴く個体がいるのを知り得た。そこで、他にも生息する個所があると思って調べてみた。

調査した日時：1982年10月15日、午後6時より15分間。うすぐもり。

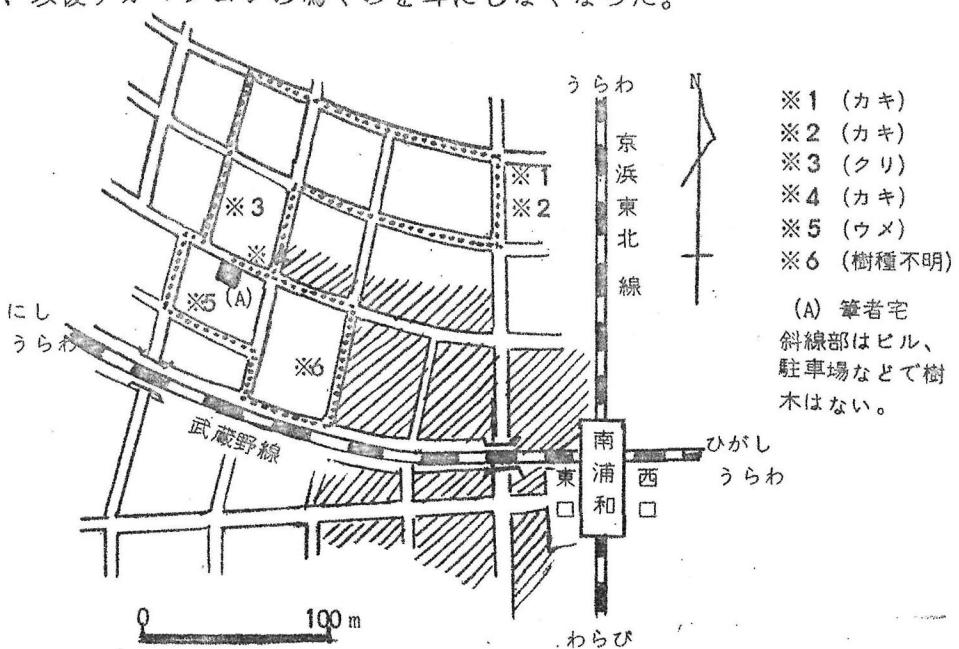
気温22.5度（前日もほぼ同じ気温で鳴いていた）。

調査した場所：浦和市南本町1丁目地内（旧 大字大谷場字一ツ木）の舗装道路を約1km歩いて確認する。約6haの範囲内。

調査結果：図の※印を付した6個所で各1個体の鳴き声を確認した。

/ haIC平均/個体という高密度の分布であった。

翌10月16日から気温が急に下り、夕刻の気温が20度以下（15度くらい）となり、以後アオマツムシの鳴くのを耳にしなくなった。



埼玉県のカギバラバチ

南部 敏明

カギバラバチ科(Trigonalidae)は小さなグループで、個体数も少なく、たまに偶然に採れるにすぎず、私の標本箱には38頭あるだけである。このたび種名が明らかになったので、埼玉で得られたものについて報告するしだいである。同定の勞をたまわった鹿児島大学の山崎 正氣博士に対し厚くお礼申し上げる。

1. はもっとも個体数が多く、38頭中15頭が本種であった。2. ~ 5. は埼玉県初記録である。

1. キスジセアカカギバラバチ *Poecilogonalos fasciata kibunensis* UCHIDA  
大滝村入川 (1ex. 31-VII-1973)、浦山日向 (1ex. 9-VII-1979)  
日向大谷 (2exs. 30-VII-1973, 原勝司氏採集)、武甲山 (1ex. 7-VII-1973、2exs. 16-VI-1974)、上吉田 (1ex. 7-X-1972)、  
皆野日ノ沢門平 (1ex. 30-VI-1973)、児玉十二天池 (2exs. 22-IX-1972)、寄居風布 (1ex. 24-IX-1971)、同釜伏 (1ex. 15-IX-1973)、越生竜隠寺 (1ex. 20-VI-1976)
2. タマカギバラバチ *P. maga* TERANISHI  
大滝村川又~雁道場 (1ex. 1-VII-1973)、浦山川細久保谷 (1ex. 24-VII-1977)、同広河原 (2exs. 31-VII-1979)、太陽寺 (1ex. 16-VII-1971)、武甲山 (2exs. 7-VII-1973)
3. ツヤハゴロモカギバラバチ *Satogonalos debilis* TERANISHI  
浦山細久保谷 (1ex. 24-VII-1977)
4. ハゴロモカギバラバチ *S. hagoromonis* TERANISHI  
児玉 (1ex. 5-V-1964)、神川村金鑓神社 (1ex. 19-V-1973)
5. フタホシカギバラバチ *Pseudogonalos hahni* SPINOLA  
太陽寺 (1ex. 16-VII-1971)

(〒369-12 大里郡寄居町桜沢2397-2)

~~~~~  
川口市におけるトラフシジミの記録

神部正博

1), 2)

トラフシジミは、最近都市化の影響に伴い、埼玉県の低地では激減している。最近の記録として、大宮市(山崎, 1980)³⁾、朝霞市(矢島, 1980)⁴⁾が報告されている。しかし、これらの地域以東の記録は皆無に等しいようである。今回、川口市の2地点において得られているので報告する。

13-VI-1982 川口市峰 1♀ 夏型 (①) 採集 (神部)

18-VI-1982 川口市峰 1♀ 夏型 (①) 採集 (神部)

19-V-1980 川口市百観音 1♀ 春型 (◎) 採集 (三田)

18-VI-1980 川口市百観音 1♂ 夏型 (①) 採集 (三田)

22-VI-1980 川口市百観音 2♂ 夏型 (①) 採集 (三田)

18-VII-1980 川口市百観音 1♀ 夏型 (①) 採集 (三田)

以上が確実な記録です。上記の記録は、埼玉昆虫談話会会員の三田 隆生君が採集したうちの個体で、筆者はその標本を確認できた。

この他に、彼の記録で採集、目撃また標本保存者不明のものが以下のとおり計30頭分あるので付記しておく。

18-VI-1980 川口市百観音、 19-VI-1980 川口市百観音

22-VI-1980 川口市百観音、 18-VII-1980 川口市百観音

19-VII-1980 川口市百観音、 25-VII-1980 川口市百観音

(以上の採集で計30頭。すべて三田 隆生君による)

今後も川口市においては、生息地が更に発見できる可能性があるので、調査を進めていきたいと思う。

なお、発表におたり野帳、標本を拝見させていただいた三田 隆生君、ならびに、貴重な文献をお送りいただいた上、県南の発生状況についてご教示くださった市川 和夫先生にお礼を申し上げる。

参考文献

- 1) 市川 和夫 (1973) 埼玉県動物誌仮目録
- 2) 市川 和夫・原 聖樹 (1978) 埼玉県動物誌 p.275
- 3) 山崎 正則 (1980) トラフシジミの大宮での記録 寄せ蛾記 (28) : 234
- 4) 矢島 嘉和 (1980) 北朝霞の蝶 (3) 寄せ蛾記 (29) : 236
- 5) 小堀 文彦 (1982) 上尾市でトラフシジミを採集 寄せ蛾記 (36) : 371

寄せ蛾記

第 38 号

1982年12月25日

埼玉昆虫談話会

定価 250 円